

支援部ネット

令和6年度

特別号

すながわ高等支援学校

<研究支援部>

初めに

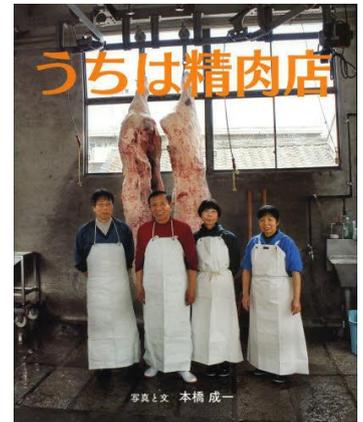
この支援部ネットでは、支援教育に関する情報や校内での取り組みなどをお伝えしていきます。今回は、総合的な探求の時間の授業で行った『人権学習一部落差別（同和問題）について一』をご紹介します。

事前学習

1・2年生次に行った人権学習の内容をおさらいしながら、スライドとワークシートで学習を進めました。ハンバーガーを例に取り、皆が今のようにハンバーガーを食べるまでにどのような職業の人が関わっているかを切り口に、どの職業もとても大事で尊重されるものであることを共有しましたが、職業で差別されてきた人々がいることを学習しました。

その後、差別されてきた職業の1つである、と畜業務・食肉産業について学び、写真・文 本橋成一『うちは精肉店』（農文協）を読みました。

自立活動の時間も使い、作 小森香折・絵 中川洋典『きみの家にも牛がいる』（エルくらぶ）や、原案 坂本義喜・作 内田美智子・絵 魚戸おさむとゆかいななかまたち『いのちをいただく』（講談社）等の絵本も読み、出前授業の事前学習としました。



講師の紹介

北出昭さん（ご自身のプロフィールより抜粋）



現在、精肉店と太鼓屋をしながら、貝塚市人権協会会長を務めている。ご自身の生い立ちの中、水平社宣言文にめざめ、高校1年の15歳の時から解放運動に参加。地元で青年部長・支部長を務める。保育・教育運動に思いが強く、部落解放保育保護者大阪連絡会会長を2年間経験、2000年には地元小学校でPTA会長も務め、今もOB会で日常活動。命の話を年間30件ほど行っている。2012年3月、市立と畜場を閉鎖した。

◦◦ 出前授業では

2月17日（月）に貝塚市人権協会会長の北出昭さんをお招きして『命をいただき、いのちは生きる』をテーマに出前授業を行っていただきました。

最初に、北出さんに講演をしていただきました。ご自身が部落差別を受けてきた経験から、当事者としてのお話や、生徒たちに伝えたいメッセージをお話いただきました。

○食べ物を大切に。「いただきます」「ごちそうさま」ありがとう、と感謝の気持ちで。

○と畜場では牛を「殺す」とは言わない。感謝の意味を込めて「割る」と言う。

○せっかくいただいた命、少しの無駄もないようにさばく。

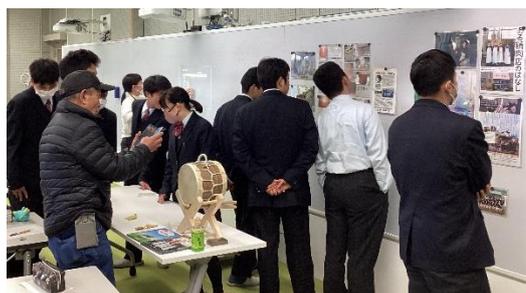
○1番大事なのは「人の命」であり「私の命」「仲間の命」。いじめや差別は絶対にダメ。

○人権とはみんな幸せに生きる権利。人に傷つけられるものではない。

その後、貝塚市で代々、牛の飼育から精肉店の経営まで手掛けてきた北出さん 一家を追ったドキュメンタリー映画『ある精肉店のはなし』（株式会社やしほ映画社）のダイジェスト版を視聴しました。

休憩時間には北出さんの周りに生徒たちが集まり、お話を聞いたり、持参していただいた太鼓を叩かせていただいたり、牛の個体識別番号のレプリカに触れたりしました。

最後の質疑応答でも質問するなど、心でしっかりと受け止めている様子が見られました。



◦◦ 生徒たちの感想

○動画を見て、長年育ててきた牛から命をもらっているシーンを見ると心がすごく痛むところもありましたが、牛、豚、鳥から命をいただき感謝をしながらお肉を食べていきたいと思いました。また、人それぞれの個性を認め合うことも自分たちには必要だと感じました。

○話を聞いて、感謝をすること、自分の命や家族など人の命がどれだけ大事なのかとも分かりました。これからは友だちや家族に悪い言葉を言わないように気を付けて、自分や人の命を大切にしようと思いました。

○農家にとって牛は家族の一員ということ。「いただきます」「ごちそうさま」は感謝の気持ちを伝えること。いじめと差別は絶対にしてはいけないこと。人の体や心を傷つけてはいけないということが勉強になりました。

○動画の中で、牛をハンマーで一気に気絶させるシーンがすごく心にきました。自分は牛や豚の命を頂いているから生きていられたり、好きなことができていたんだと改めて思いました。だからこれからはご飯を食べるときはしっかりと感謝の気持ちを込めて「いただきます」「ごちそうさまでした」と言おうと思いました。